



滋賀縣神奈郡 五ヶ荘町金池

外村茂一郎 様 方

英治 様

親展

X

山

京都

山  
石  
信  
天

「英治君」英名ンと云ふと僅に取つては思ひ出さるゝ學校友達ノヤ幼  
友達(親友)である。その英名ンと呼ぶうは後少々と思ふと胸が一ぱい  
に乃つて来た。又筆を取つて見れば何れも書目にて良し、か筆か思ふ程に  
行動一ぱい今う僅です。今僅は、二時同英名は忠義善と遊べ別れが  
長き事を考へると何だかヤリヤリと淋しい氣持である。私に座わり考へて  
見ると長き笑顔がほつきりと浮かぶ上って僅に話しかけてくれる様なる氣がする。  
恋しい。いや此う英名ンだうが最後と思ふと何となくともうたりる。様なる氣が  
して長き顔が見えなくなると思ふと、うざりか信じてくれると思ひます。  
でもね、長が行つたとして長き事は一日として忘れさせる。長も初め時き事  
と時を思ひ出さずしてさす。右に書目したるは自分すら何を書目したかはか  
つたが頭の中が■こんがつするばかりと氣にさわる事があるは許してさす  
まじ。バカな事ばかり書ききたてすまらぬ。でも親うる。僕が淋しい氣持は長  
にはわかつてもらへると思ひます。二十一日頃行かへると劇さし水が最後  
の手紙とるまかわからぬか？

追伸

僕も月末には出ますので最後と思つて先一に健康に暮らしていただく事を  
心からお祈り申し上げます。お送り出来ぬがお詫言下さし  
では十分お身体を大切して下さい。      さようなら

昭和三十年十月二十三日 午後十一時五十分、

小村信男拜

